

彙 報

西南アジア研究会会報・その他

- 本会例会——第3回（日本オリエント学会関西支部と共催）：7月13日午後2時、於京大楽友会館、織田武雄氏「テヘランの都市地理」。
- 京都大学第4次イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊（水野清一教授を隊長に西川幸治・小野山節・小谷伸男諸氏ほか）は7月20日以降相ついで羽田発カーブルその他へ。帰国は明年2月の予定。○京都大学東南アジア研究センターの岩村忍氏（京大人文科研教授）は平沢総長と共に7月28日羽田発バンコクその他へ。研究班の現地向け出発に先立ち、タイ・ビルマ・マラヤ各国の大学や文教関係者と事前協議の上8月10日帰洛さる。同センターの「東南アジア研究」第1号は7月（吉田光邦、臼井二尚、棚瀬裏爾諸氏の論文・報告）、第2号は11月（藤吉慈海、岩村忍、西田龍雄諸氏の論文・報告）にそれぞれ発行。日比野丈夫氏ほか諸氏の動静についても同誌に詳報あり。なお所長奥田東教授の総長就任（12月16日）に伴い経済学部堀江保蔵教授が所長事務取扱に任命された。○「インド学試論集」Nos. 4-5（京大印度・仏教学会）は10月10日発行。小林信彦・岩本裕・服部正明ほか諸氏の論文・書評・学界展望等登載。
- 日本オリエント学会（会長三笠宮殿下）は8月から事務所を東京都千代田区神田錦町1の9、東京天理教館9階に移転。第5回学術大会は10月19～20日、関西学院大学で開催され、また11月25日には社団法人組織の認可を得た。なお季刊誌「オリエント」Vol. VI, No. 1（岩本裕・羽田明・嶋田襄平・佐藤圭四郎・藤本勝次ほか諸氏の論文等）は8月30日、No. 2（三笠宮殿下による地中海文明印象記〔太田秀通氏著〕の紹介、その他）は10月15日発行。

西南アジア研究会会員消息

- 川喜田二郎氏（東京工大理工学部教授）は日本民族学協会主催の「第3次東南アジア稲作民族文化調査団」団長として6月25日羽田発インド、ネパールへ。明年3月帰国の予定。○梅棹忠夫氏（大阪市大助教授）は38年度京大アフリカ学術調査隊に参加7月6日羽田発タンガニイカ国へ。主として「遊牧民に関する人類学的研究」を行い明年3月帰国の予定。○加賀谷寛氏（大阪外大講師）は7月9日羽田発イランへ。テヘラン大学でイスラム宗教史と近代イラン史の研究に兼ねて現代ペルシア語学資料蒐集の上10月18日羽田に帰着された。○小林信彦氏（京大文学部助手）はハーバード大学にサンスクリット研究の為8月9日羽田発渡米された。○山口恵照氏（阪大文学部助教授）は8月17日教授に昇任された。○臼井二尚氏（京大文学部教授）は8月27日停年退官され大谷大学教授に就任（社会学担当）された。○杉勇氏（東京教育大学文学部教授）は日本学術会議代表としてバリの古典学会に出席の為8月31日羽田発渡欧、以後英・蘭・独・エジプト・トルコ・イラン等を経て明年1月末帰国の予定。○田中四郎氏（大阪外大講師）著「アラビア語文典」その1は9月15日（大阪外大アラビア語学研究室、マナーラ会、限定版）、同じく「実用アラビア語会話」は10月15日（大学書林）発行された。○岩本裕氏（京大文学部講師）著「インドの説話」は9月30日発行（紀伊国屋新書）。○森鹿三氏（京大人文科学研究所教授）は10月1日付で同研究所長に任ぜられた。○岡崎正孝氏（アジア経済研究所所員）は昭和36年3月以来、同研究所の海外派遣員としてテヘラン大学経済研究所に在籍、イラン農村—特にゴルガン地方の—社会経済構造について研究、本年9月テヘラン発、ロンドン、ローマの諸研究施設歴訪後10月2日羽田に帰着された。○松平千秋氏（京大文学部教授）は西独マインツ大学に客員教授として出張中のところ10月6日羽田に帰着された。○水野清一氏（上記）は12月27日帰洛される旨来信。

あとがき

○ No. 11を贈る。岩村氏からは非常な多忙裡を御寄稿賜わり、以下加藤、佐藤、中村諸氏の異色ある論考など、多彩な顔ぶれは本誌の特色を遺憾なく発揮し、足利、織田正副会長、羽田編集長以下のご努力と共に感謝にたえない。次号刮目してご期待を乞う。○前号は中原教授の退官記念として特定分野の編集を敢行し、僅に1年分のサービスも行なったが今また本号を贈る。価格を上げぬものは何かをおとす世情に昂然その逆を行く本誌！切にご援助を仰ぎたい。○本号もあぼろん社社主伊藤武夫氏を煩わした。困難な本誌印刷に献身され感謝にたえない。〔編集部記〕